



2024年2月9日

各位

会社名 株式会社ハーバー研究所  
代表者名 代表取締役社長 宮崎 一成  
(コード番号 4925)  
問合せ先 取締役財務・経理部担当 高崎 明彦  
(TEL. 03-5296-6250)

### 業績予想の修正並びに固定資産の減損損失の計上及び繰延税金資産の取り崩しに関するお知らせ

当社グループは、2024年3月期第3四半期決算において、繰延税金資産の取り崩しを行うとともに、最近の業績動向等を踏まえ、2023年5月11日に公表いたしました2024年3月期（2023年4月1日～2024年3月31日）の通期連結業績予想を下記のとおり修正いたしましたので、お知らせいたします。また、2024年3月期第4四半期連結会計期間（2024年1月1日～2024年3月31日）において、固定資産について減損損失を計上する見込みとなりましたので、併せてお知らせいたします。

なお、本業績予想の修正に伴う1株当たり年間配当予想40円の変更は予定しておりません。

#### 記

#### 1. 2024年3月期通期連結業績予想数値の修正（2023年4月1日～2024年3月31日）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円/銭
前回発表予想 (A)	13,500	390	400	250	66.11
今回修正予想 (B)	12,100	△450	△470	△2,340	△618.80
増減額 (B - A)	△1,400	△840	△870	△2,590	—
増減率 (%)	△10.4	—	—	—	—
(ご参考)前期実績 (2023年3月期)	12,038	△609	△582	△707	△187.19

#### 2. 修正の理由

売上高につきましては、コロナ禍の沈静化や円安などが後押しとなり、百貨店、直営店は前年同期比増となりましたが、通信販売（EC含む）では生活防衛意識の高まりなどにより、既存顧客の購入頻度が減少し、新規顧客の獲得においては、第3四半期の販売促進策、40周年企画限定商品等が想定に届かず、当初予想との乖離が生じることとなりました。その他卸売（海外輸出含む）では、輸出の大半を占める中国の薬事関連規制の影響や中国国内の個人消費の落ち込みなどにより、販売活動の回復に遅れが生じ、売上に大きく影響を与える結果となりました。

営業利益、経常利益につきましては、仕入原材料等の価格上昇による利益率の低下、さらには主力商品

である基礎化粧品の上高が前年同期比減となったことが利益減少の要因となっています。なお、基礎化粧品のマイナスの要因は中国向けの輸出が影響しています。

このような結果、2023年5月11日に公表いたしました2024年3月期の通期連結業績予想を修正させていただきます。

今後は営業体制及び技術・開発力の強化を進め、継続的に利益を創出できる収益構造への転換を図ってまいります。

なお、当期の期末配当金につきましては、2023年5月11日公表の期末配当予想から変更ございません。

### 3. 固定資産の減損損失の計上について

上記要因並びに直近の業績動向を踏まえ、将来の回収可能性を慎重に検討した結果、想定期間内での回収が困難となったため、また、資産を早期に費用化することで翌年度以降の損益計算書をより実際に近い形で作成することが可能となることから、2024年3月期第4四半期連結会計期間において、当社が保有する固定資産（建物・機械装置等）の帳簿価格を回収可能価額まで減額し、減損損失として約16億円（金額は概算）を計上する見込みであります。

### 4. 繰延税金資産の取り崩しについて

現時点での将来の課税所得を見積り、繰延税金資産の回収可能性を検討した結果として、繰延税金資産を取り崩し、法人税等調整額189百万円計上する見込みとなりました。

※上記の予想は、本資料の発表時現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、様々な要因によって予想数値と異なる結果となる場合があります。

以 上